

授業計画書 (シラバス)

教科名	プロフェッショナル アート演習Ⅱ	曜日 時間	不定期 9:10-15:50	担当者名	山本 浩貴
-----	---------------------	----------	-------------------	------	-------

		前期指導案		後期指導案		
年間 授業 日 (4回)	4月			10月		
	5月	14		11月		
	6月			12月		
	7月			1月		
	9月			2月		
方授 法業	(講義) ・ 実技)			(講義) ・ 実技)		
授業 内容	1回目の授業では、アーティスト・ステートメントの書き方について復習する。最初に講師がステートメントの書き方について一般的な内容を説明した後、すでに1年次に書いている自身のステートメントを各自がアップデートし、それらを発表した後に全員でディスカッションを行う。休憩をはさみ、次に、クラスメートのステートメントを書いてみることで、他者の創作を客観的に観察・記述する訓練を積む。2回目の授業では、近現代美術史を概説する。日本で、さらに工芸や美術の現代的なフィールドで活動していくうえで不可欠な知識(戦後日本の前衛美術、フェミニズムやポストコロニアリズムと美術史の交わりなど)を身につける。			3回目の授業では、2回目の授業で学んだ美術史の知識も活用しながら、自身の制作のインスピレーションとなりそうな過去のアーティスト(なるべく「工芸」領域ではない作家が望ましい)について調べ、そのアーティストの生涯、作品、自身の制作との関連などについて15～20分程度のプレゼンテーションを行う。各プレゼンテーションの後、全体でディスカッションを行う。時間が許せば、現代アートに関する映像資料を視聴する。4回目の授業は修了制作の作品を説明するコンセプト文、および自分が修了後に使用できるアーティスト・ステートメントを作成し、発表する。各自のコンセプト文とアーティスト・ステートメントについて、講師を交えて全体でディスカッションを行う。		
到達 目標	効果的なアーティスト・ステートメントを書くために必要な知識や技術を習得することを目標とする。			前期で習得した知識や技術を自分なりの仕方で活かして、これからの活動のために有用なアーティスト・ステートメントの完成を目標とする。		
成績 基準 評価	成績評価は、以下の要素を総合的に判断して算出する。 積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／課題の完成度／提出期限の厳守／授業の目標水準の到達／個人の成長度／出席状況など。			成績評価は、以下の要素を総合的に判断して算出する。 積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／課題の完成度／提出期限の厳守／授業の目標水準の到達／個人の成長度／出席状況など。		
留意 事項	自身の興味のある領域について、インターネットや図書館を活用しながら、積極的に調べ、理解を深めることが望ましい。			自身の興味のある領域について、インターネットや図書館を活用しながら、積極的に調べ、理解を深めることが望ましい。		